

「新品種・省力化技術の導入と6次産業化等による経営改善計画」

1 ビジネススクール受講の動機

普及指導員からの勧めで、ビジネススクールのことを知り、これまで、農業経営に関する勉強をしたことが無かったので、経営を学べる良い機会と思い受講した。



2 スクール受講中と修了後の経営改善

○平成7年に、ニラと水稻を主体として就農しましたが、その後、新たに果樹（パッションフルーツ、ぶどう）を導入しています。

○ぶどうに関しては、複数の直売所に販路を開拓することができました。今後は、販売に応じた、ぶどうの作付規模拡大を検討しています。

○また、ニラ部門においては、ウォーターカーテン及び自動結束機を個人で導入、全自動の播種機・定植機を集団で導入し、省力化を進めてきました。ニラに関しては、新品種の情報収集及び試作を通して、作業効率・収量性に優れた品種構成になりつつあります。

○経営部門ごとに、生産費の把握と経営分析を実施することで、経営品目の整理・合理化を進めたいと考えています。また臨時雇用の導入を考えています。

○6次産業化については、パッションフルーツでの経験から、全部自分で行うのは困難であることを実感していますが、規格外の生産物の有効利用及び付加価値化による販売単価の向上が課題と考えるため、加工業者及び流通業者等の異業種交流の中での6次産業化、販路拡大を検討していきたいと思っています。

3 ビジネススクールを受けたメリット

経営計画を策定することで、今後の経営目標を明確化できました。

一方、経営計画の達成に向けて、経営を振り返る時間を作るのが困難な状況である。

ビジネススクールを終了した卒業生が、互いに目標達成状況を確認したり、情報交換ができるような機会があると良いと思います。ビジネススクール修了生をフォローアップすることで、栃木県農業の牽引役となるビジネスモデルが生まれていくと考えます。